

令和5年度 当別町子ども発達支援センター 自己評価の結果について

【評価対象事業】

- ・児童発達支援

【調査機関】

- ・令和5年12月11日～令和6年1月12日

【調査対象者】

- ・当別町子ども発達支援センター指導員

【回答率】

- ・配布数：7名 回収数：7 回収率：100%

*回答を分析し、次年度の改善に反映してまいります。

【評価】

- ・センター内の環境や設備等の配慮は、適切に行っているという評価です。業務改善、適切な支援の提供、関係機関や保護者との連携、非常時の対応は、概ね適切に行っているという評価です。
- ・職員の専門性や資質については、対面形式の集合研修の機会が増え、オンライン研修等に積極的に参加してきました。職員一人ひとりの意識や自主的な研修、学習意欲の向上がみられるのではという評価です。
- ・保護者交流会等は、隔月で開催をしてきましたが参加者が少なかったため、交流会の内容や開催方法を考えながら、保護者同士の連携を支援していくことが課題となります。

【課題】

- ・今後も利用者に安心して通園していただけるよう、職員の体調管理の意識向上、センター施設内や遊具等の消毒を行い、感染症予防の徹底が引き続きの課題となります。
- ・職員の専門性や資質については、評価を踏まえて反省し、職員一人ひとりの意識の向上が今後も課題と考えます。オンラインでの研修に加え、集合研修等も増えてきているので、可能な限り積極的に学習をする姿勢が必要と考えます。
- ・保護者向けの交流会や学習会の開催方法を検討し、保護者同士の連携を支援していくことも、今後の課題となります。

【今後に向けて】

- ・今後も利用児童と保護者の方一人ひとりに寄り添い、適切な支援の提供や職員の資質向上を目指します。次年度は、社会福祉法人麦の子会の臨床発達心理士による地域支援の受講、道立施設専門支援事業で北海道総合医療・療育センターの医師による研修会の受講、北海道通園センター連絡協議会・北海道乳幼児療育研究会主催の研修会の受講を予定しています。その他随時研修会、学習会の案内があれば参加を希望します。
- ・認定こども園や学校、他の事業所等との連携に努めます。
- ・引き続きセンター施設内の消毒等を行い、新型コロナウイルス感染症やその他の感染症予防の徹底に努めます。